

新型コロナウイルスワクチン接種の効果と副反応について

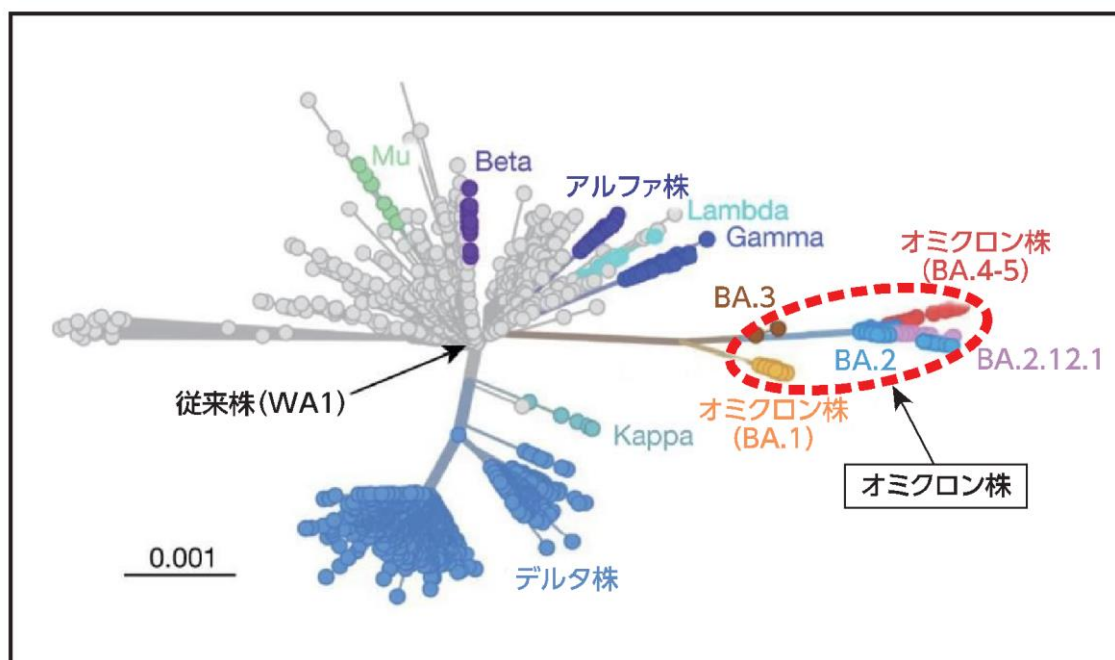
新型コロナワクチン接種を希望される方は、接種券に同封される「新型コロナワクチン予防接種についての説明書」を必ずお読みください。ワクチンを受ける際には、感染症予防の効果と副反応のリスクの双方について、正しい知識を持っていただいた上で、ご本人の同意に基づいて接種をご判断いただきますようお願いいたします。受ける方の同意なく、接種が行われることはありません。職場や周りの方など接種を強要したり、接種を受けていない人に対して、差別的な対応をすることはあってはいけません。

1. オミクロン株対応 2 価ワクチンの効果

オミクロン株対応 2 価ワクチンの追加接種には、オミクロン株の成分が含まれるため、従来型ワクチンと比較した場合、オミクロン株に対する重症化予防効果とともに、持続期間が短い可能性はあるものの感染・発症を予防する効果も期待されています。

また、2価ワクチンであることにより、様々な新型コロナウイルスに反応します。異なる2種類の抗原があることにより、誘導される免疫よりも、より多様な新型コロナウイルスに反応すると考えられます。そのため、今後の変異株に対して有効である可能性がより高いことが期待されています。

〈 新型コロナウイルスの変異株の枝分かれ(系統樹) 〉



(※)出典をもとに改変

出典: Wang, Q., Guo, Y., Iketani, S. et al. Antibody evasion by SARS-CoV-2 Omicron subvariants BA.2.12.1, BA.4 and BA.5. Nature 608, 603-608 (2022).

関連リンク

[・新型コロナワクチンについて\(厚生労働省\)](#)

2. ワクチン接種後の副反応

ワクチン接種は、体内に異物を投与し免疫反応を誘導し、感染症に対する免疫を付与することを目的として行われるため、効果とともに副反応が生じ得ます。ワクチン接種後には、接種と因果関係のない偶発的な事象も生じますが、因果関係が不明な場合も含めて、副反応を疑う事例として広く収集し評価の対象としています。

① 国内における新型コロナウイルスワクチン接種の副反応疑いについて

医療機関からの副反応疑い報告について

【集計期間：2021.2.17～2023.1.22】

※令和5年3月10日 第92回厚生科学審議会資料を基に作成

ワクチン	副反応疑い報告数 (報告頻度)	重篤報告数 (報告頻度)	死亡報告数 (報告頻度)
ファイザー (総数) (推定接種回数：289,760,103回)	30,348 (0.0105%)	7,063 (0.0024%)	1,347 (0.0005%)
オミクロン株 (BA.1) (8,078,638回)	87 (0.0011%)	29 (0.0004%)	4 (0.000%)
オミクロン株 (BA.4-5) (38,900,836回)	381 (0.0010%)	150 (0.0004%)	38 (0.001%)
モデルナ (総数) (推定接種回数：83,056,239回)	5,487 (0.0066%)	1,250 (0.0015%)	172 (0.0002%)
オミクロン株 (BA.1) (3,095,390回)	48 (0.0016%)	11 (0.0004%)	2 (0.0001%)
オミクロン株 (BA.4-5) (830,688回)	22 (0.0026%)	3 (0.0004%)	0 (0.0000%)
ノババックス (総数) (推定接種回数：288,900回)	38 (0.0132%)	11 (0.0038%)	1 (0.0003%)

ワクチン	副反応疑い報告数 (報告頻度)	重篤報告数 (報告頻度)	死亡報告数 (報告頻度)
乳幼児ファイザー (総数) (推定接種回数：233,472回)	3 (0.0013%)	2 (0.0009%)	0 (0.0000%)
小児用ファイザー (総数) (推定接種回数：4,014,611回)	141 (0.0035%)	39 (0.0010%)	3 (0.0001%)

※「重篤」とは、①死亡、②障害、③それらに繋がるおそれのあるもの、④入院、⑤①～④に準じて重いもの、⑥後世代における先天性の疾病又は異常のものとされているが、必ずしも重篤でない事象も「重篤」として報告されるケースがある。

※重篤報告数は、全報告数から、非重篤及び重篤度が不明な報告数を除いたもの。

※報告数は、直近日曜日時点での情報により予防接種との因果関係が不明な事象も含めている。よって、詳細な情報が得られたことによって予防接種との因果関係が否定された事象は、表から除外され各件数が変わることがある。

※報告数は副反応疑い報告の件数を集計したもの。1症例(1患者)で複数件の副反応疑い報告が提出される場合があるため、報告数と症例数(患者数)は一致しない。

※同一の副反応疑い事例であっても、報告内容(転帰等)の更新等により複数回報告される場合がある。同一副反応疑い事例が複数回報告された場合は、集計時点で最後に報告された報告内容に基づき集計している。

※医療機関から重篤度が「重くない」事例として報告があった場合であっても、症状の転帰が死亡の場合は、「重い」事例として扱っている。

※1件の副反応疑い報告書において、異なる接種回の副反応疑い事例が同時に報告されている場合は、当該報告書における最大接種回数を、当該報告の「接種回数」として記載・集計している。

※コナチ筋注(総数)及びスパイクバックス筋注(総数)の推定接種回数及び副反応疑い報告等の件数については、起源株ワクチン、2価ワクチン及び株不明のワクチンの総数として集計している。

② 新型コロナワクチン接種後にみられる主な副反応について

新型コロナワクチン接種後、体内で新型コロナウイルスに対する免疫ができる過程で、様々な症状(注射した部分の痛み、発熱、倦怠感、頭痛、筋肉や関節の痛み、寒気、下痢等)が現れることがあります。こうした症状の大部分は、接種の翌日をピークに発現することが多いですが、数日以内に回復していきます。まれに以下のような例も報告されていますので、接種後気になる症状を認めた場合には、まずは、かかりつけ医にご相談ください。

副反応疑い報告の報告基準別報告件数

※令和5年3月10日 第92回厚生科学審議会資料を基に作成

ワクチン	アナフィラキシー	TTS	心筋炎	心膜炎	熱性けいれん
ファイザー(総数)	2,836	62	154	49	2
オミクロン株(BA.1)	6	1	4	1	0
オミクロン株(BA.4-5)	61	3	6	2	1
モデルナ(総数)	528	29	99	28	0
オミクロン株(BA.1)	7	0	1	0	0
オミクロン株(BA.4-5)	5	0	0	0	0
ノババックス(総数)	14	0	1	0	0

ワクチン	アナフィラキシー	TTS	心筋炎	心膜炎	熱性けいれん
乳幼児ファイザー(総数)	1	0	0	0	2
小児用ファイザー(総数)	11	0	6	2	1

※接種開始日(コナチ筋注:令和3年2月17日、コナチRTU筋注(2価:起源株/オミクロン株 BA.1):令和4年9月20日、コナチRTU筋注(2価:起源株/オミクロン株 BA.4-5):令和4年10月13日、コナチ筋注6ヵ月~4歳用:令和4年10月24日、コナチ筋注5~11歳用:令和4年2月21日、スパイクバックス筋注:令和3年5月22日、スパイクバックス筋注(2価:起源株/オミクロン株 BA.1):令和4年9月20日、スパイクバックス筋注(2価:起源株/オミクロン株 BA.4-5):令和4年11月28日、ヌバキソビッド筋注:令和4年5月25日)以降の累計報告件数。TTSは、いずれのワクチンも令和3年8月3日以降に第一報の報告がなされたものの累計件数。心筋炎及び心膜炎は、いずれのワクチンも令和3年12月6日以降に第一報の報告がなされたものの累計件数。熱性痙攣は、いずれのワクチンも令和4年10月24日以降に第一報の報告がなされたものの累計件数。

※予防接種後副反応疑い報告書の別紙様式Iの報告基準に記載のある症状(「その他の反応」は除く。)について、報告状況をもとに集計を行った。

※アナフィラキシー、心筋炎又は心膜炎、TTS 事例として医療機関から報告されたものを集計したものであり、ブライトン分類による評価を経て集計したものではない。ブライトン分類でレベル4又は5と分類されたものを含む。

※TTS:血栓症(血栓塞栓症を含む。)(血小板減少症を伴うものに限る。)

○心筋炎・心膜炎

ごく稀ではありますが、ワクチン接種後に心筋炎や心膜炎を疑う事例が報告され2021年12月6日から重大な副反応として位置づけられました。多くは安静によって自然回復すると言われていますが、接種後数日以内に胸の痛みや動悸、息切れ、むくみなどの症状が現れた場合には速やかに医療機関を受診してワクチンを受けたことを伝えてください。

関連リンク:10代,20代の男性と保護者の方へのお知らせ

○血小板減少症を伴う血栓症・毛細血管漏出症候群等

ごく稀ではありますが、アストラゼナカ社ワクチン接種後に血小板減少症を伴う血栓症や毛細血管漏出症候群(※)を発症した例が、海外で報告されています。接種後に次のような症状が現れたら速やかに医療機関を受診してください。

- ※ 持続する激しい頭痛、目のかすみ、息切れ、錯乱、けいれん、胸の痛み、手足のむくみや痛み、持続する腰痛、接種部位以外の内出血(あざ)、低血圧などの症状。なお、これらの症状のほとんどは接種後28日以内に起きることが多く、また、2回目の接種後よりも1回目の接種後に起きることが多いと言われています。

○追加接種でのリンパ節の腫れ

追加接種では、初回接種(1・2回目)と比較してリンパ節の腫れが多く(20%程度)報告されています。症状がひどかったり長引く場合には、医療機関を受診してください。

○ギラン・バレー症候群

ごく稀ではあるものの、mRNA ワクチン接種後にギランバレー症候群が報告されています。接種後に両側の手足に力が入らない、歩行時につまづく、階段を昇れない、物がつかみにくい、食べ物が飲み込みにくいなどの症状が現れた場合には、速やかに医療機関を受診してください。

関連リンク

・これまでに認められている副反応にはどのようなものがありますか。(厚生労働省)

相談窓口

◆栃木県新型コロナウイルスワクチン接種に関する専門的な相談

(ワクチン接種後の副反応など)

[TEL:0570-052-092](tel:0570-052-092)

対応時間:9:00~21:00(土日、祝日含む)

◆厚生労働省による新型コロナワクチン接種施策の在り方等に関する国民からの問い合わせに対応するための電話相談窓口

TEL:0120-761-770(フリーダイヤル)

受付時間:9:00~21:00(土日、祝日含む毎日)

◆下野市健康増進課感染症対策グループ

[TEL:0285-32-8905](tel:0285-32-8905)

受付時間:8:30~17:15(平日のみ)